**寄宿舎・興譲館寮ご入寮のすすめ**

2013年8月

東京興譲館長　川合勝雄

東京興譲館寮のOBで、この7月から館長に就任した川合と申します。米沢有為会は、東京・仙台の２つの学生寮の運営と奨学金の貸与などの育英事業を行う公益社団法人です。昭和４１年に入寮しました。当時は入寮希望者が多くて選考が大変だったと思います。当然相部屋で4年生になってようやく個室になれました。寮も活気がありました。それから40年も経って老朽化したので4年前の有為会創立120周年の記念事業で5千万円をかけての大規模改修を実施しました。おかげで、耐震・防火工事とリニューアル工事が完了しました。各部屋にエアコンが設置されインターネットも利用出来ます。現在は全部屋が個室です。現在の舎費は４万７千円（冬季は４万８千５百円）です。寮生活の魅力について当時大学4年で寮長の滝田君が有為会誌に書いた記事から一部引用させていただきます。

「寮生活は、共同生活であるがゆえに従うべき規律や規則、努めなければ仕事や役割分担があります。1人暮らしの生活とは違い大変さを感じることもあるかもしれません。しかし、寮生活で得る事が出来る先輩・後輩、またともに大学4年間を暮らす同年代の仲間の中で人間を磨き、自己を見つめ直すことは人生の中でなかなか得る事の出来ない絶好の機会であり、1人暮らしでは絶対得ることの出来ない体験だと思います。」

寮母の三浦さんは体育大学の出身で、住み込みで働いてもらっています。寮生活おいて毎日の食事も大切です。寮生は、毎日おいしい食事をつくっていただき、1人ひとりの健康管理まで暖かい目を注いでくれる寮母の三浦さんには感謝しています。

東京支部では、５月の新入生歓迎会と２月の卒業を祝う会を多数の会員の参加のもとで実施しています。その会には毎回上杉邦憲名誉会長や仙台興譲館寮OBの西村純先生にご出席いただき励ましのお言葉を頂いています。

日本の宇宙科学をリードされてきましたお２人を会員にもつことは米沢有為会の誇りです。米野宗禎東京支部長は、「寮は、単なる安下宿であってはならない。」といわれています。そのために学生や会員を対象にした文化講演会を年２回ほどリニューアルした寮で大学教授などを招いて実施しています。学生時代に、各方面で活躍されている先輩のお話を直接聞ける事は大きな刺激になると思います。保護者の皆さまにお願いします。かわいい子には旅をさせよと申します。欧米では、事業で成功している億万長者の人ほど、子供を全寮生の学校に入れて、自分の力で自分の人生を切り開くように教育していると聞いた事があります。都内の大学受験のときに、余裕があれば寮を見学してください。昨年より舎生選考の面接は米沢で実施しているからです。インターネットのホームページで“米沢有為会”で検索してくだされば寮のことや東京支部の活動内容も知ることが出来ます。向学心に燃えた学生が１人でも多く入寮されて、青春時代を謳歌し有意義な学生時代を送ってください。将来寮生活の経験は必ず役に立ちます。